

地場産生かして食育・教育・協働力

福井市棗小学校

1 取り組みの概要

(1) 地域や家庭と学校の連携実績

項目	回数
地域・学校協議会	3回
中学校区を単位とした協議会	50回
地域及び家庭への学校公開	25回

(2) 地域人材の活用（のべ人数）

講師・ゲストティーチャー	28人
授業ボランティア（含：低ボラ）	5人
登下校支援ボランティア	1500人
その他（ ）	0人

(3) 特色ある活動

テーマ ふるさと教育

具体的活動内容

地域の方に協力をいただき、幼小中で地場産のらっきょう切りに取り組んだ。
また、近くの学校田や中庭に作られた学校菜園では、地域の方々に苗植えの時から継続して関わっていただき、収穫の喜びをともに味わった。

- ①「異学年交流・地場産食材を生かす」をキーワードに食育・教育・協働力を進める幼稚園児と3年生児童が合同で米作りを体験した。春の田植えと秋の稲刈りを一緒に行い、収穫を味わった。3年生児童は稲穂が実る頃、かかしを作成し、田んぼに立てた。

収穫した米を炊いて、おにぎりパーティーを実施したり、ポン菓子作りを体験したりして、日頃食べている米がどのように作られているのか体験を通して学んだ。また、異学年協働で作業を行い、思いやりや感謝の心の育成を進めた。



- ②学校・家庭・地域の効果的な連携（特に生活習慣・食生活）の仕方を協議する

地域のボランティアの方々から支援を得て、低学年児童が学校菜園で野菜作りに取り組んだ。

苗植えや、施肥、除草、収穫などの一連の作業を経て、野菜を進んで食べようとする姿勢が見られた。

給食にも収穫した野菜を使ったメニューが登場し、野菜を食べることが体に与えるよい影響について、全校の児童生徒に発信することができた。

成果と課題

幼小中の3校種が、校地・校舎を共有している利点を生かし、多くの場で中学校区としての取組ができた。学校評議員会や教育研究、職員会議など学校運営の根幹に関わる部分で、幼小中が絶えず連携し、機能を補完し合ってきた。外部講師を招いての研修会やPTCA活動も3校種合同で実施している。隣接する保育園とは、幼稚園を中心に密接な交流が図られた。

学校菜園や花壇などでの栽培活動においては、幼稚園と小学校のみの連携にとどまっている。小学校の児童会活動と中学校の生徒会活動とがリンクし、さまざまな場面で一貫性のある取組や地域の方々との交流が図られるよう、企画運営の方策を見出していきたい。